

会議結果報告書

会議の名称	令和6年度第1回札幌市子ども・子育て会議
日時・場所	令和6年6月27日（木）10：00～12：00 札幌市役所 12階1～5号会議室
出席委員 21名/29名中	天野舞子、五十鈴理佳、大森悠平、加藤智恵、川内佳奈、菊地秀一、金昌震、 桑原俊二、斎藤規和、繁泉将晴、高瀬麻美、千島孝洋、千葉一博、永浦拓、 馬場政道、林亜紀子、樋口雅宏、藤原里佐、星信子、箭原恭子、山口裕一（敬称略）

議事	概要
1 第4次さっぽろ子ども未来プラン令和5年度実施状況報告	<事務局説明> 事務局より以下の資料について説明を行った。 ・資料1-1 第4次さっぽろ子ども未来プラン令和5年度実施状況報告書<実施状況総括> ・資料1-3 第4次さっぽろ子ども未来プラン令和5年度実施状況報告書<札幌市子ども・子育て支援事業計画> また、事前に委員から聴取した意見・質問に対し、事務局より回答した。 ・追加資料 意見集約資料 <主な委員質問・意見> 資料1-1（5ページ）計画全体の成果指標の達成状況 ・（委員）「自分のことが好きだと思う子どもの割合」について、要因や相関関係の分析はあったのか。 →（石堂子どもの権利推進課長）自己肯定感をはかる設問「自分のことが好きだと思う」について、国民性もあり、この設問だけでは自己肯定感とイコールに捉えられないということが最近言われており、今回調査で、「自分のことを理解してくれる人がある」、「毎日が充実していて楽しい」、「自分には様々な可能性があると思う」、「私は自分という存在を大切に思う」という項目も併せて聞いた。「今の自分が好きだ」の回答は62.4%、「自分のことを理解してくれる人がある」の回答は86.4%など、自己肯定感をはかるに当たり、様々な指標の取り方があると思うので、次期プランの策定等において、併せて検討したい。 追加資料 意見集約資料（NO.4の回答に関して） ・（委員）「失敗」とは何かという共通認識も必要と思うがいかがか。 ・学校教育において多様性を認め合うという説明があるが、他者と比較することについて必ずしも悪いものではないと考えるがいかがか。 →（大井教育課程担当課長）「失敗」の大小ということではなく、それをいかにいい方向に向けていくかというところ。子どもたちが自ら課題を見つけて、自ら学んで、自ら問題を解決する力を高めていきたいという考え方で、学習指導を進めている。引き続き、子どもたちが前向きに挑戦していくことができる環境を整えていきたい。他者との比較については、学校教育の重点として、「人間尊重の教育」を位置付けており、子ども一人一人が、自分が大切にされていると実感できる学校づくりを

進めている。その中で子どもたちが自分のよさ、可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重するといった相互承認の感度を高めていくことによって、多様な人々と協働しながら、様々な社会的な変化を乗り越えて豊かな人生を切り開き、持続可能な社会の作り手となっていけるような、そのような教育を目指して取り組んでいる。

追加資料 意見集約資料（NO. 5 の回答に関して）

・（委員）この回答でいじめが減少するのか疑問。教職員に対する人権教育と子どもたちにいじめに関する授業を繰り返す必要がある。

→（末原児童生徒担当課長）いじめは、誰にでもどこにでも起こり得るものだということと、早期発見などについて対応を考えていくことが重要であると認識している。意見を真摯に受け止め、生かしていきたい。

・（委員）いじめに関して、今春の札幌市の基本方針の改定を踏まえて、各学校のいじめ防止基本方針も改定をされているということだが、ホームページに公開されている当該方針が令和5年度のものになっている学校もある。こういった学校も札幌市の基本方針に対応した改定がなされるのか。

→（末原児童生徒担当課長）基本方針改定前の春休みの段階で各学校へ方針改定の方角性を伝え改定準備を行うよう連絡しており、本年4月の改定時に改めて各学校に説明している。改定はされているもののおそらくホームページへの公開が遅れているものと推察する。

・（委員）先ほどのいじめに関する授業や教職員への人権教育の話に関連して、教員からの強い言葉などに不安を抱く子どももいる。教員の発言などに対し、子ども一人一人の受け取り方がそれぞれ違うということも少し考えていただけるよう、教員への人権教育などを行っていただきたい。（意見のみ）

・（委員）多様な子どもたちが一緒に学ぶインクルーシブ教育がうたわれているが、その際の教員の言葉かけ一つで子どもの人権観が自然に育ってしまうと思うし、日本では人権教育というのがなかなかされてこなかったもので、親世代に人権が染みついていない中、啓発だけで子どもの権利というものを尊重した子育て、教育というのは難しいと思う。親世代が、子どもの人権について考えていけるような取組をお願いしたい。（意見のみ）

<審議結果>

承認

2 (仮称) 第5次さっぽろ子ども未来プランの策定について	<事務局説明> 事務局より以下の資料について説明を行った。 ・資料 2-1 (仮称) 第5次さっぽろ子ども未来プラン骨子案 また、事前に委員から聴取した意見・質問に対し、事務局より回答した。 ・追加資料 意見集約資料 <主な委員質問・意見> 資料 2-1 (12 ページ) 6. 計画体系 (案) (第4章 具体的な施策の展開) 基本目標 1 ・(委員) 基本施策3「児童虐待防止対策と社会的養護の推進」に関して、里親支援センターを来年度から発足させていく考えがあるのか。 →(湯谷家庭支援課長) 里親支援センターを整備して、里親の支援体制の強化を図っていきたいという考えはあり、実現できるように検討を続けたい。 ・(委員) こども家庭庁にて社会的養護自立支援拠点事業が構想されたと思うが、来年度より札幌市でも実施するのか。 →(笹谷地域連携課長) 社会的養護自立支援拠点事業について、現時点では、本市にて来年から拠点事業を設立する予定はない。他団体などの様子を見ながら、今後検討する。 ・(委員) 前向きに検討してほしい。 ・(委員) 基本理念及び基本方針について、「若者」という考えや文言を新たにつけ加えていることから、計画体系の基本目標の1にも、子どもの権利というだけではなく、若者という視点をより分かりやすく取り入れて表していく方がいいのではないか。(意見のみ) 資料 2-1 (13 ページ) 6. 計画体系 (案) (第4章 具体的な施策の展開) 基本目標 2 ・(委員) 不登校の子どもに係る対策が、次期計画においてどこに当てはまるのか。 →(二渡子ども企画課長) 基本目標1「子どもの権利の推進とライフステージを通じた環境の充実」、基本施策4「困難を抱える子ども・若者への支援の推進」に不登校支援を位置づけたいと考えている。 ・(委員) 周産期の産後うつに関係しての自殺というのが、先進国の中でもまだ依然として高いと聞いている。産後の親子、母親への支援について、もう少し具体的に自殺というところまで踏み込んだ対策を盛り込むことも必要ではないか。 →(石川母子保健担当課長) 産後うつの自殺について、あってはならないこととして重く受け止めている。本市でも出産後の家庭訪問にて、産後のメンタルヘルスに係るアンケートを行い、こまめな支援や相談を実施している。一人でも命が失われることがないよう、産後の親子について、今後もしきめ細やかな支援を続ける。
--------------------------------------	--

・(委員) 先の産後の自殺に関する質問に関連して周産期のメンタルヘル스에特化したような公的な相談窓口があると、より手厚い支援ができるのではないかと。

→(石川母子保健担当課長) 精神保健に関わる部署とも連携し、検討を進める。なお、特化した窓口も必要であると認識しているところ、窓口が複数あると悩んでしまうので、子育てについて悩みがあれば、区の保健師が相談を受け、必要な窓口へところにつなぐということを行っており、こちらも引き続き取り組む。

・(委員) ワンストップ窓口ということで区役所の保健福祉で相談員が取り組んでいる部分もあると思うが、LINE など SNS 上の相談窓口などは、若い方もよく見ており相談しやすいという声も聞くので、充実させてほしい。(意見のみ)

資料 2-1 (14 ページ) 6. 計画体系 (案) (第 4 章 具体的な施策の展開)
基本目標 3

・(委員) 子育てサロンについて、親子が行き詰った時に分離するのではなく、子どもといることが楽しいということを理解し、子育ての楽しさを学んだり、色々な仲間を作る場になってほしい。また、父親の支援について、この 2、3 年で父親が自分も子育てと一緒にするんだという意識が高くなっていると感じる一方、周囲の上の世代の方からどうして男が子育てをするのかという声が多いのが現状である。そこについて考えるべきであり、子育てが大変というイメージではなく、楽しいところを伝える場が増えてほしい。父親の育休については、育休を取得するのが目標になり、育児にうまくかかわれていないという現状もある。

→(佐藤子育て支援推進担当課長) 子育てサロンは、小さなうちから親子で一緒に遊んだり交流したりできる重要な場であると認識している。引き続き子育てサロンの利用について啓発を進めるとともに、また、父親の子育て推進に関しても、様々な啓発を行いつつ周知を図るなど取り組む。

資料 2-2 令和 5 年度子どもに関する実態・意識調査 (概要版)

・(委員) いろいろな調査を行うにあたり、調査人数を増やしたり、色々な角度から行うべきだと思う。また、設問についてもより具体的に記載していくなど、より実効的なものになるよう検討してほしい。

→(二渡子ども企画課長) アンケート調査については、質問項目等も含めて、その都度見直しを考えてまいりたい。

次期子ども未来プラン策定スケジュールについて

・(委員) 次期子ども未来プランの策定について、今回骨子案、次回会議にて素案を審議するとのことであるが、その間に意見を伝える機会はあるか。

→(二渡子ども企画課長) メール等により、都度ご意見をいただければ、

	検討の際に参考にさせていただく。
--	------------------

報告	概要
1 各部会の決議状況について	<事務局説明> 事務局より以下の資料について報告を行った。 資料3 児童福祉部会の決議状況 資料4 若者支援施設在り方検討部会の決議状況 <委員からの意見及び質問> ・特になし

(議事概要について発言者内容確認済み)